

## ガラパゴス旅行記

Komatsu Holding South America

小川 賢吾

去る 8 月 9 日、ガラパゴスへ上陸。他にも色々で行きたい場所の候補はあったのですが、南米のめぼしい場所はほとんど行ってしまい、最後に残った有名処がガラパゴスでした。

本当は、ふらっと行って現地ツアーに参加するのが理想なのですが、社会人ともなると、そう易々と日程の確保が出来るはずもなく、事前にツアーを申し込んでガラパゴスへ。ガラパゴスのツアー形態は「クルーズ」と「アイランドホッピング」の 2 種類あり、クルーズは船に寝泊りしながら各島々に上陸。長所は、遠くの島までくまなく周る事ができる。短所は寝泊りが船上なので、船酔いが起こりやすい+値段が高め。アイランドホッピングは、有人島のホテルに泊まりながら近隣の島々へのデイトツアー。長所は、ホテルに泊まるので船酔いの心配が無い+比較的安い。短所は、遠くの島までは行けず、近隣の島々しか見られない。今回はお財布の中身と相談して「アイランドホッピング」で参加することにしました。なお、時間のある方は「ラスト・ミニッツ」というクルーズ船の空席セールがありますので、島で空席を待つのも一つの手です。



バルトラ空港へ到着後、連絡船に乗り、サンタクルス島へ、中心地である「プエルト・アヨラ」に到着後、港の周辺を観光し、昼食をとりイザベラ島へスピードボートで移動。

生憎、天気が曇り時々雨。波も高く、2 時間程度のしんどい船旅でした。なお、スピードボートに乗る際は、後部座席に座る事を強くお勧めいたします。前方だと船の上下運動の衝撃で気分が悪くなる可能性が高く、私の向かいに座っていたアメリカ人カップルはエチケット袋が手放せない状況でした。

イザベラ島についたら早速アシカのお出迎え、人間に対する警戒心が無いのか、そこら中でお昼寝中です。到着日はフラミンゴ生息地へ行き、フラミンゴを見て終了。



2日目は、ゾウガメの繁殖場、マングローブ林へ行き、ティントレス島でウミイグアナを見てから、ペンギン、アシカ生息地でのシュノーケリング。陸の上ではよちよち歩きのペンギンでも、水の中では俊敏。アシカも自ら近寄ってきます。恐らくイザベラ島周辺での一番の目玉スポットではないでしょうか。



3日目、イザベラ島の火山 **Sierra Negra** へのトレッキング。山の天気は変わりやすく、雨が降ったり、止んだり。開始当初はどしゃ降り、噴火跡地域へ入ると快晴になり、合羽を脱いでトレッキング再開。目的地に着くと眼下に不毛の大地。同じ島でも少しでも違う場所だと、こうも環境が違うのかと思いきらされます。トレッキング後は、港近くでのシュノーケリング。夜は同じツアーの参加者数名と島のレストランで飲み会。出身国の事や職業、これまでの旅行での色々なエピソードを酔っ払いながら話し、夜も更けていきました。

4日目の早朝、サンタクルス島へ移動。今度こそは後部座席を確保するぞと意気込んだはいいものの既に満席、しかたなく前方へ...

サンタクルス島へ着いてからは、ダーウィン研究所の見学。ここは、各島々のゾウガメの保護施設、繁殖場となっていて、たくさんのゾウガメが見られます。ゾウガメは、出身島により個体差があり、甲羅の形が違います。餌が低い場所にある島に住んでるものは、ドーム型。逆に餌が高い場所にある島に住んでるものは、鞍型。高い場所の餌をとるために、首を長く伸ばす事が出来る様に進化したとの事。右上の写真は、鞍型の甲羅のゾウガメ。

午後は、野生のゾウガメを見学。元々は牧場だった場所ですが、野性のゾウガメが来ることがわかり、観光施設になったとの事。数はあまり多くないですが、野生のゾウガメが見られる絶好の機会ですので、ガラパゴスに行く際は立ち寄ることをお勧めいたします。甲羅も置いてあるので、記念写真にぴったりな場所です。



【甲羅と筆者】

5日目、サンタクルス島近くの南プラサ島へ上陸。アシカ、カツオドリ、野生の陸イグアナを見ることが出来ます。その後、シュノーケリングでサメを見てツアーは終了。サメは人を襲わない種類のもので、ある程度近づいても大丈夫です。



6日目の早朝にサンタクルス島からバルトラ島の空港へ移動、グアヤキル、リマを經由してサンチャゴへ。

最後になりますが、今まで南米諸国を旅してきましたが、ここまでダイナミックな自然と触れ合える場所はありません。駐在期間中に磨れた？心を癒してくれる絶好のスポットですので、是非ともガラパゴスへ足をお運びください。

※この記事は、カマラ会報 240 号（2015 年 11 月発刊）に掲載されました。